

点描ぐんま経済

日銀支店長

見聞録

66

群馬県に赴任した当初、いろんな方に「群馬県のことを知りたいのです」とお話しすると、かなり多くの方々から「上毛かるたに書かれている場所を訪れるのが良いですよ」とアドバイスいただいた。

そして、いざ挑戦。挑戦してみても分かるのは、群馬県の観光地、旧所名跡、過去の偉人の導入部分が網羅されているということ、そのゆかりの地が群馬県各地に点在していること。「うー、このままでは全部行けない」と思っ、パソコンで一覧表を作成した。そうすると、職場の人か

群馬の歴史探訪

遺産、名跡に奥深さ

「簡単なアプリがありますよ」と教えてもらった。なんと、便利な世の中になったのだらう。

それから、しばらく

は奥深いのだらう。

それから、上野三碑3か所も巡った。古墳時代には石碑を作るという風習はあまりなかったもので、平安時代よりも古い古墳は18個しかないが、そのうち3個が群馬にある。しかも、最古の碑があると

いう素晴らしさ。絹の世界遺産4か所

回できるようにした画

期的な場所。すなわち、冷たい風を当てることになって蚕の卵に冬が来たと思わせ、その後暖かい場所に移すことで、春が来たこと誤解して、化すらしい。そして、素晴らしい風が出るメカニズム。荒船風穴は妙義山にあ

ためこまれた冷気が、春以降吹き出してくると聞いた。まさしく「天然の冷蔵庫」だ。

荒船風穴には全国各地から蚕の卵が集まったらしい。下仁田駅までは上信電鉄で、その後は馬車や人力で運んだとのこと。何ともの活動ではないか。明治維新後の人々が養蚕、製糸にまい進し、それが日本の近代化を

の間は、ほとんどの週末が、「上毛かるた」のゆかりの地巡り。行く先々で、その地の歴史や言い伝えなどを知った。「天下の義人茂左衛門」の話が印象に残った。茂左衛門の勇氣ある行動と真田氏が滅んだ理由、そして、その時の将軍が館林城主だった徳川綱吉であること。何と、群馬県

も巡った。どれも素晴らしいが、感動したのが「荒船風穴」。こは、蚕の卵を保管できるだけでなく、それまで年一回しかできなかった養蚕を、年複数

るが、妙義山から岩が崩落し、その上に雪が積もる。そして春が来ると、外の雪は解けるが、岩の隙間に入り込んだ雪は解けない。その

中で主要なパーツな豊富な、日本の歴史群馬県は本当に奥深く興味をそそる歴史が推進したことに思いをはせた。

岡山和裕（おかやま・かずひろ）

1969年

7月生まれ。兵庫県出身。東京大学法学部卒。92年日本銀行に入り、業務局統括課長、決済機構局業務継続企画課長、情報サービス局総務課長などを務め、2018年4月から現職。

